

横浜 Yokohama Renaissance ルネサンス

Number.4

特別号

決定!横浜のニックネーム

Jelly Beans

特集 A Day of Yokohama

1日の横浜

▽ 横浜信用金庫



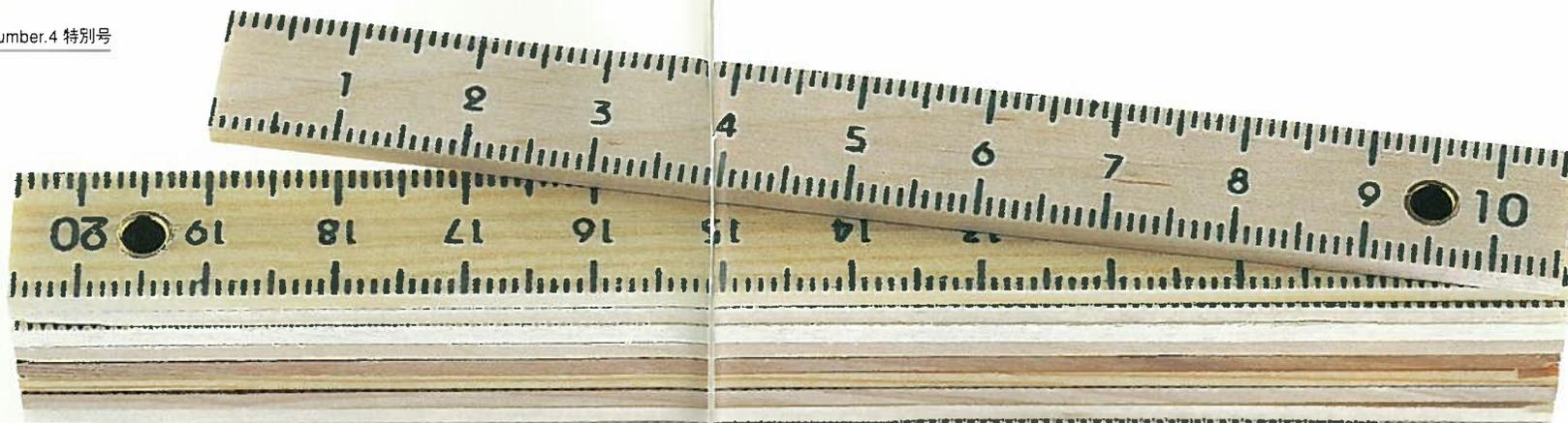
横浜 ルネサンス

Yokohama Renaissance

Number.4 特別号

contents

横浜を測る



Nickname of Yokohama

決定!「横浜の
ニックネーム」
Jelly Beans

04

Image Song of Yokohama

根岸線「駅の歌」
集計結果

08

A Day of Yokohama

1日の横浜

人口動態
卸・小売業全体
卸売業業種別
小売業業種別
繁華街
百貨店・スーパー

12

Information

《よこしん》の
お知らせ

30

Message from President

ご挨拶

Saito Kazumi



横浜信用金庫理事長

齋藤寿臣

横浜信用金庫は、2003年7月に創立80周年を迎えるにあたり、『横浜ルネサンス』と題した単行本をダイヤモンド社から発行しました。これは2002年10月から2003年3月にかけて発行した3冊の小冊子「横浜ルネサンス 集・商・創」に新たな原稿を加えて再編集したものです。

『横浜ルネサンス』発行後、80周年記念事業としては「横浜のニックネーム募集」、「根岸線・駅の歌」募集」という横浜のイメージ調査を実施しました。「横浜ルネサンス特別号」は、このふたつの調査結果を報告するとともに、統計数字によって横浜を表現する「1日の横浜」という特集

で構成しました。

単行本『横浜ルネサンス』が、人を通じて横浜を定性的に捉えることを目的としていたのに対して、この特別号では定量的なアプローチで「横浜のリアル」を表現することを目指しています。

未だ曙光といった感がありますが、景気回復の兆しも見えてきました。本誌が今後の横浜を展望する際の参考となれば幸いです。

横浜信用金庫はこれからも地域社会の発展に貢献すべく、日々業務に務めてまいります。今後とも皆さまのご支援、ご指導をお願いいたします。



決定! 「横浜のニックネーム」

企画のきっかけと趣旨

「横浜のニックネーム」募集は、当金庫の創立80周年記念事業として実施したものです。きっかけとなったのは、横浜市が発行する雑誌「横濱」(2003年夏号)に掲載された松浦一樹さん(読売新聞記者)のエッセイの「横浜にも愛称があれば」という一節でした。ニューヨークの愛称「ビッグアップル」は市民の合言葉になっているそうです。そんな愛称がわたしたちの街にもあればと考え、松浦さんの発案をもとに、この企画はスタートしました。公募情報誌を利用して全国から作品を募り、横浜のイメージを調査してみようという狙いもありました。

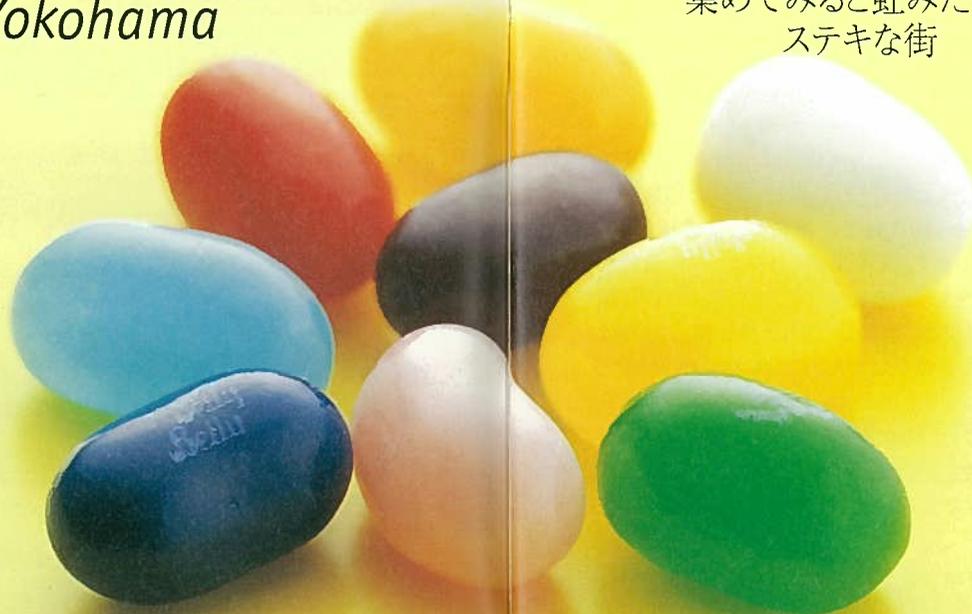
2003年の9月5日から12月26日までの募集期間中にご応募いただいた作品総数は5,052作品で、男性2,676作品、女性2,374作品でした(性別不明2作品)。年代別では、10代以下173作品、20代954作品、30代1,137作品、40代938作品、50代836作品、60代584作品、70代272作品、80代以上94作品(年代不明64作品)と幅広い世代からご応募がありました。地域別では、神奈川県が1,075作品で最も多く、以下、東京都(632)、大阪府(300)、埼玉県(270)、千葉県(261)という順で、47都道府県すべてからご応募をいただきました。

入賞作品について

調査に先立って、もしかしたら「港・海」や「異文化(エキゾチズム)」などの横浜の一般的なイメージを裏切る結果が出るかもしれないと考えていました。以前と比較すると、輸送・通信手段の多様化によって港の存在意義は相対的に低下しています。港町としての横浜の存在感も同様です。「異文化(エキゾチズム)」につい

Jelly Beans

Nickname of
Yokohama



ジェリービーンズ
1粒もおいしいけど、
集めてみると虹みたいに
ステキな街

ても、インターネットによって世界中がつながっている現在、横浜の専売特許とはとてもいえない状況になっているからです。

結果として、事前の予想は裏切られました。応募作品による横浜のイメージには、やはり「港町」「青・海」「異国・異文化」などが多かったのです。しかし、キーワードでまとめた横浜のイメージは実に多様です。横浜は明治維新という歴史の大転換期に、開港によって政策的に誕生した街で、実質的な歴史はわずか150年しかありません。短期間に海外文化の流入口となったため、こう

した多様性を持つ街になったのだと思います。

この企画のきっかけとなった松浦さんの文章には「三日住めば、浜っ子」という故青木雨彦さんの言葉が紹介されています。名コラムニストとして知られた青木さんもやはり浜っ子です。そして、松浦さんは「進取の気性にあふれ、新しい文物を好む」のが浜っ子だとしています。

横浜ルネサンス賞に輝いた「Jelly Beans」(ジェリービーンズ)という作品は、こうした横浜の多様性とそのポップな特質を表現していることが評価されました。このニックネームが横浜に

入賞作品の選考について

当金庫の職員による1次、2次審査を経た91作品が最終審査にかけられました(この91作品には当金庫の全職員約1,200名の投票結果も付されました)。最終審査は、当金庫の理事長・斎藤寿臣、専務理事・土井正武、常勤理事・野木正治に、企画の発案者である読売新聞の松浦一樹さんを迎えて行いました。

選考にあたっては、①横浜の特徴をうまくとらえている ②語感が良い ③他の意味に取られない ④視覚的にデザインしやすい ⑤キャッチフレーズ的な表現でないことなどを条件とし、厳正な審査の結果、以下の3作品が入賞作に決定しました。

横浜ルネサンス賞(最優秀賞)

Jelly Beans(ジェリービーンズ)

香川県丸亀市 藤野春恵さん

作者の一言/ジェリービーンズはお菓子の名前でカラフル&ポップな色がとってもかわいく、見ただけで楽しくなります。ちっちゃいゼリーの粒の名です。イルミネーションや文化、お店、太陽と空の色で変わる海の景色等、人も含めてそれぞれが個性で古いものも新しいものも個々で見ても、まとめて見てもすごく愛らしい存在である横浜でありますように!と願いを込めて考えました。ジェリービーンズみたいに1粒もおいしいけど、集めてみると虹みたいにステキな街です!横浜は。

入賞2点

ときめき発信地

宮城県仙台市 野村美佐子さん

作者の一言/いろいろなものが外国からきた街、これからも横浜から日本各地にたくさんものを発信してほしい。

Big Balloon(ビッグバルーン)

静岡県駿東郡 室井 博子さん

作者の一言/風船のように夢がふくらむ街という意味で名づけました。

定着したら素晴らしいと考えています。ご応募いただいた全国の皆さまにお礼申し上げます。

キーワードで読む横浜

データの分析にあたって、使われている単語に基づいて応募作品を33種類のキーワードで分類しました(次頁表1)。表2には性別で見たキーワードの上位10点が載っています。「港町」「青」「海」「異国・異文化」という上位4つは男女に共通しており、全体の21.5%を占めています。男女合計でこれに続くのが、「中華」で中華街

表1 横浜のイメージ・キーワード33

1 港町	450	12 赤い靴	83	23 スター・星	32
2 青	290	13 文明開化	82	24 レトロ	27
3 海	200	14 たそがれ	63	25 汽笛・霧笛	23
4 異国・異文化	148	15 かもめ	58	26 レインボー	22
5 中華	135	16 エキゾチック	55	27 箱	19
6 未来	129	17 ブルーライト	52	28 じゃん	18
7 潮風・風	111	18 世界	46	29 舶来	17
8 恋	108	19 モダン	40	30 ジャズ	17
9 ハイカラ	105	20 灯かりひかり	38	31 シウマイ	17
10 夢	87	21 開港・開国	35	32 みなとみらい	16
11 ロマン	84	22 おしゃれ	33	33 赤レンガ	14

上記キーワードの応募数合計は2654でした。

表2 男女のイメージする横浜 上位10位 (男女別) (母集団数:5050名 単位:%)

合計	男性	女性
1 港町 8.9	港町 9.6	港町 8.2
2 青 5.7	青 6.8	青 4.5
3 海 4.0	海 4.1	海 3.8
4 異国・異文化 2.9	異国・異文化 2.3	異国・異文化 3.7
5 中華 2.7	未来 2.2	中華 3.3
6 未来 2.6	中華 2.1	潮風・風 3.0
7 潮風・風 2.2	ハイカラ 1.9	未来 2.9
8 恋 2.1	夢 1.8	恋 2.7
9 ハイカラ 2.1	文明開化 1.8	ハイカラ 2.3
10 夢 1.7	ロマン 1.6	赤い靴/たそがれ 1.9

表3 世代別の横浜イメージ 上位10位 (母集団数:4988名 単位:%)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1 港町 8.7	港町 8.2	港町 8.9	港町 7.1	港町 7.4	港町 13.4	港町 12.5	港町 16.0
2 青 4.6	中華 5.6	異国・異文化 4.9	青 7.0	青 7.1	青 7.2	海 6.3	海 4.3
3 中華 4.6	青 4.9	海 4.6	海 3.5	海 4.1	海 3.9	青 異国・異文化 4.4	異国・異文化 4.3
4 海 4.0	海 4.0	海 4.1	異国・異文化 3.3	異国・異文化 2.9	異国・異文化 3.9	異国・異文化 4.4	異国・異文化 4.3
5 恋 3.5	異国・異文化 3.9	異国・異文化 3.0	異国・異文化 3.1	異国・異文化 2.5	異国・異文化 3.1	異国・異文化 4.0	異国・異文化 3.2
6 潮風・風 2.9	未来 3.5	未来 2.9	未来 2.3	未来 2.0	未来 2.9	未来 3.7	未来 3.2
7 ロン 2.3	恋 2.9	恋 2.9	未来 2.2	未来 2.0	未来 2.9	恋 2.6	異国・異文化 3.2
8 異国・異文化 1.7	異国・異文化 2.5	異国・異文化 2.6	異国・異文化 1.7	異国・異文化 1.9	異国・異文化 2.7	異国・異文化 2.2	異国・異文化 2.1
9 たそがれ 1.7	異国・異文化 2.4	異国・異文化 1.6	異国・異文化 1.7	異国・異文化 1.9	異国・異文化 2.2	異国・異文化 2.2	異国・異文化 2.1
10 赤い靴 1.7	夢 1.4	夢 1.5	夢 1.7	夢 1.9	夢 2.1	夢 2.2	夢 2.1

の存在感の大きさがうかがえます。もっとも、神奈川県民だけを対象とすると「中華」は第16位(0.9%)で、中華街は地元以外の地域に対するシンボルとして機能しているようです。

男女合計で第6位の「未来」はみなとみらい地区からの連想が多かったようです。このキーワードは神奈川県民のデータでは第3位に入っており、「中華」とは逆に地元における浸透度が高くなっています。みなとみらい地区は横浜ランドマークタワーが開業した1993年から実質的な歴史がスタートしています。歴史が浅いため、対外的な印象は相対的に低いのかもかもしれません。

年代別でもやはり第1位は「港町」です。横浜が名実ともに港町として栄えた時代の印象が強いせい、60代以上の年代での構成比が高くなっています。興味深いのは男女合計、世代別合計でともに12位に入った「赤い靴」です*。別頁の根岸線「駅の歌」でも上位に入っているように、大正時代にできたこの童謡は横浜という街のイメージと密接につながっているようです。

キーワード別の作品を「港・海」「異文化・歴史」というカテゴリーに分類して分析したのが7頁の図1~3です。

*性別不明(2名)、年代不明(64名)の応募者の方がいるため、表2と表3の母集団の数が異なります。年代別合計は、1位「港町 9.0%」、2位「青 5.8%」、3位「海 4.0%」、4位「異国・異文化 3.0%」、5位「中華 2.7%」、6位「未来 2.6%」、7位「潮風・風 2.2%」、8位「恋 2.2%」、9位「ハイカラ 2.1%」、10位「夢 1.7%」の順でした。

神奈川県民のイメージする横浜 上位10位

1 港町	108 作品	10.1%
2 青	82	7.6
3 未来	46	4.3
4 海	44	4.1
5 異国・異文化	33	3.1
6 潮風・風	25	2.3
7 文明開化	25	2.3
8 かもめ	23	2.1
9 恋	22	2.0
10 赤い靴	20	1.9

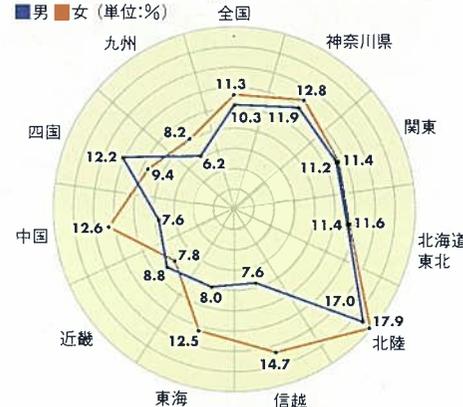
図1 「港・海」系と「異文化・歴史」系 イメージ地域比較



図2 「港・海」系イメージ男女比較



図3 「異文化・歴史」系イメージ男女比較



Column 「横浜=Jelly Beans」考

読売新聞記者 松浦一樹 (中区在住)

横浜は、彩りの豊かさゆえに、かえって、その特徴をひとことと言いつづけるのが難しい。野毛大道芸、元町チャミングセール、横浜大世界、ランドマークタワー、赤レンガ倉庫、ベイブリッジ、MM線、本牧ジャズ祭、馬車道アイス、大さん橋、カレーミュージアム、横浜橋、牛鍋、メリーさん、「ブルーライト・ヨコハマ」、ベイスターズ、金沢八景...と、キーワードなら無数に浮かぶが、「じゃ、ひとこと」といわれると、詰まってしまう。

なのに、愛称を決めようというのだから、「よこしん」も無謀といえば、無謀だ(責めを負うべきは、言い出しっぺの私なのですが)。ところが、応募作品の中から「ジュエル・ボックス(宝石箱)」「文化のサラダボウル」「カラフル・スパイス」...と有力候補をピックアップしていくうちに、横浜を愛する人々のセンスのよさに気づかされた。「彩りの豊かさ」をストレートに表現すればいい。そう、教えられたのだ。

感化されるままに、審査員は「Jelly Beans」を大賞「横浜ルネサンス賞」に選んだ。アメリカで19世紀の後半から量り売りされている、フルーツ味のゼリーをキャンディーでコーティングした粒状の砂糖菓子。イースター(キリスト教の復活祭)には、飾り菓子として欠かせない。そう、レーガン元大統領が執務室にいつも置いていた、あれ。一粒、一粒が鮮やかな原色で、瓶詰めにする、実にカラフルだ。

選考の決め手となったのは、応募はがきにぎっしりと書き込まれていた推薦者の思い。多彩な文化、なまめかしいイルミネーション、空模様が移ろうと色合いを変える海...を連想させるからふさわしいとあった。横浜は一粒、一粒がおいしい「虹みたいステキな街」だから、とも。まったく同感だ。名乗るうじゃありませんか、ジェリービーンズ。



根岸線「駅之歌」 集計結果

Image Song of Yokohama

根岸線「駅之歌」総合トップは 「ブルー・ライト・ヨコハマ」

この企画も80周年記念事業のひとつで、根岸線の5つの駅名に象徴される各地区のイメージを曲名とアーティスト名で公募するものでした。対象としたのは、JR根岸線の5駅、横浜・桜木町・関内・石川町・山手です。

横浜を題材とした歌はたくさんありますが、歌われている地区の大半は駅名でいえば桜木町から山手までです。文学作品も同様で、多くは桜木町から関内・中華街・元町、麦田のトンネルを抜けて山手・本牧を舞台(題材)にしています。つまり、横浜の経済的な中心である横浜駅周辺はあまり歌や文学のテーマとしては取り上げられていないのです。商業的な繁栄と芸術的なモチーフは一致しないのかもしれない。

駅名(地名)と歌の間にあるこのギャップがどう表れるかが、この調査のテーマのひとつでした。

公募情報誌などを利用して全国から募集した結果、1,120本の応募があり、曲数は2,616曲に上りました。集計結果を見ると、童謡の「赤い靴」や「港が見える丘」(1947年)などの古い曲とともに、山崎まさよしさんの曲が上位に入っているところに、古くて新しい街という横浜の二面性が表れているように思われます。以下、集計結果を駅別にみてみます。

Yokohama Station	横浜駅	
1位	ブルー・ライト・ヨコハマ(いしだあゆみ)	172
2位	よこはま・たそがれ(五木ひろし)	91
3位	赤い靴	27

横浜駅は「ブルー・ライト・ヨコハマ」と「よこはま



たそがれ」が上位を占めました。駅名と曲名・歌詞がストレートに結びついた結果だと思います。他の4つの駅と比較すると2曲ともローカル色が薄く、横浜駅からイメージされる曲として、かつての大ヒット曲がいわば“最大公約数”として選ばれたという感じがします。

Sakuragiya Station	桜木町駅	
1位	さくら(森山直太郎)	89
2位	One more time, One more chance(山崎まさよし)	87
3位	桜坂(福山雅治)	36

桜木町駅は、比較的新しい曲が上位を占めました。ただ、

「One more time, One more chance」は歌詞

に桜木町が出てきますが、「さくら」と「桜

坂」は桜木町や横浜とは直接関係

がありません。2曲とも“さくら”という

キーワードから桜木町が連想され

た結果のようです。みなとみらい地区(桜

木町)は歴史が新しいため、その地域を歌

った曲がまだ少ないという

ことでしょう。桜木町駅の西側には野毛町という独

特の雰囲気を持つ街、歌謡曲が似合いそうな街があるのですが、

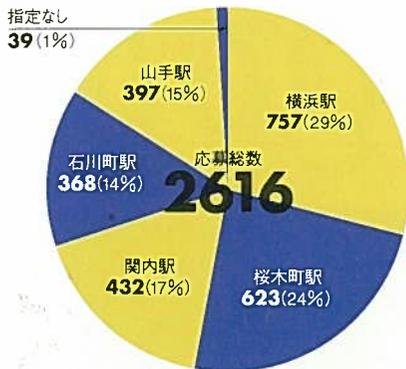
どちらかといえばポップス系の曲が集まりました。

Kannai Station	関内駅	
1位	伊勢佐木町ブルース(青江三奈)	56
2位	横浜ベイスターズ球団歌(熱き星たちよ)	47
3位	恋人も濡れる街角(中村雅俊)	17

関内駅は本命(?)ともいえる伊勢佐木町ブル



駅別応募総数



ースが1位でした。「横浜」という大エリアから比べれば、伊勢佐木町はずっとローカルな街ですが、ご当地ソングとしての「伊勢佐木町ブルース」の存在感を証明した形です。

2位には「横浜ベイスターズ球団歌」が入りました。関内駅と横浜スタジアムのロケーションを考慮すれば当然の結果かもしれませんが、横浜ベイスターズという市民球団の地域密着度を示していると思います。

Ishikawacho Station	石川町駅
1位 赤い靴	28
2位 秋の気配 (オフコース)	15
3位 ブルー・ライト・ヨコハマ (いしだあゆみ)	7

石川町駅は童謡の「赤い靴」が1位でした。横浜、桜木町、関内、石川町、山手という5つの駅を並べた場合、異国情緒という横浜のエキゾチシズムをもっとも喚起するのが石川町なのかもしれません。

Yamate Station	山手駅
1位 海を見ていた午後 (松任谷由実)	44
2位 My Home Town (小田和正)	12
3位 港が見える丘 (平野愛子)	11

山手駅はユーミンの荒井由実時代の作品「海を見ていた午後」が1位でした。歌詞に出てくるレストラン「ドルフィン」を一躍全国区(?)にした曲です(実際は、ドルフィン山手ではなく根岸旭台にあり、「晴れた午後でも三浦岬」は見えないそうですが)。第2位には地元出身の小田和正さんの曲が入りました。小田さんはオフコース

としても「秋の気配」が石川町駅の部で第2位に入っています。2曲とも石川町・山手が舞台となっています。第3位は「港が見える丘」でした。港の見える丘公園がタイトルの由来となった曲ですが、石川町駅のほうが同公園には近いはずですが、実際の距離と応募者の心理的な距離感になにかギャップがあるのかもしれませんが。

「ブルー・ライト・ヨコハマ」と「てるてる家族」

この調査で総合第1位になった「ブルー・ライト・ヨコハマ」がヒットしたのは、1968年のことです。この年、横浜市は人口が200万人を突破しました。以来36年が経過して市の人口は350万人を超えました。昨年の9月からNHKでいしだあゆみさんご家族をモデルにしたドラマ「てるてる家族」が放映されており、この2月25日には、奇しくも上原多香子さんが「ブルー・ライト・ヨコハマ」をカバーしたCDを発売しました。創立80周年記念事業として「横浜ルネサンス」を提唱してきた当金庫にとっては、根岸線「駅の歌」という企画の発表時期に幸運な偶然が重なったと考えています。

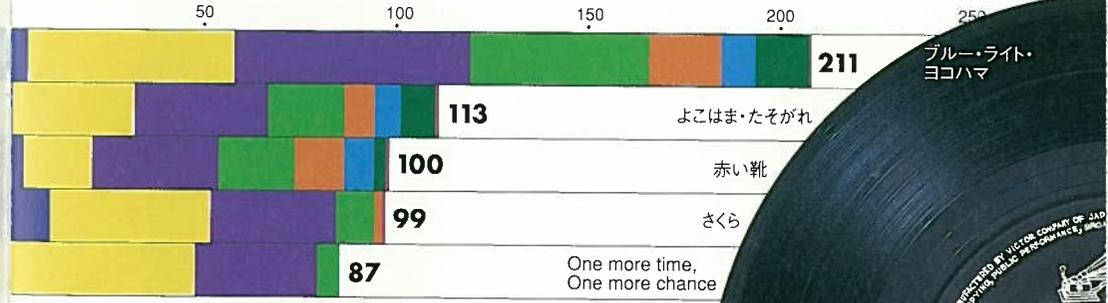
5駅合計BEST20曲	
1 ブルー・ライト・ヨコハマ	211
2 よこはま・たそがれ	113
3 赤い靴	100
4 さくら	99
5 One more time, One more chance	87
6 伊勢佐木町ブルース	72
7 桜坂	48
7 横浜ベイスターズ球団歌(熱き星たちよ)	48
9 海を見ていた午後	45
10 恋人も濡れる街角	44
11 LOVE AFFAIR ~秘密のデート~	30
12 港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ	27
13 ふりむけばヨコハマ	25
14 夏色	21
15 秋の気配	18
16 世界に一つだけの花	17
16 TSUNAMI	17
18 港の見える丘	16
19 いい日旅立ち	15
20 My Home Town	14



いしだあゆみさんのCD『いしだあゆみ・しんぐるこれくしょん』(COCP-32665~66 2枚組 税込3,500円 発売元:コロムビアミュージックエンタテインメント)が発売中です。「ブルー・ライト・ヨコハマ」が入っていることはいうまでもありません。いしだあゆみさんは、1964年ビクターからデビュー。1968年コロムビアに移籍。6月に発売された移籍第1弾「太陽は泣いている」がスマッシュヒット。同年12月発売の「ブルー・ライト・ヨコハマ」が100万枚を超える大ヒットとなりました。『いしだあゆみ・しんぐるこれくしょん』にはコロムビア在籍時代に発売された全シングルA面曲が発売日順に収録されています。

上位5曲の応募者の年代別構成

■ 20代未満 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上 ■ 不詳



5駅合計BEST20アーティスト	
1 いしだあゆみ	179
2 五木ひろし	117
3 山崎まさよし	101
4 森山直太朗	98
5 サザンオールスターズ	75
6 ゆず	74
7 青江三奈	70
8 松任谷由実	62
9 福山雅治	58
10 中村雅俊	41
11 小田和正	33
12 山口百恵	27
13 ダウン・タウン・ブギウギ・バンド	26
14 竹内まりや	25
14 マルシア	25
14 SMAP	25
17 オフコース	23
18 美空ひばり	22
19 矢沢永吉	16
19 Mr. Children	16

注:曲名にアーティスト名を記入せずに応募してきた方がいたため、曲名とアーティスト名の応募数は必ずしも一致しません。得票が多かった曲とアーティストは当然、ほぼ対応していますが、童謡の「赤い靴」はアーティストが特定されないためランクから外れて、サザンオールスターズが5番目にランクされています。地元出身のゆずは曲が分散したため、曲では上位に入りませんが、アーティストとしては6位に入りました。



1日の

統計数字を読むのは面倒くさいものです。日常ではほとんど使わない単位の数字が並ぶからでしょう。ならばからだになじんだ日常サイズの数字に変換してしまえと、横浜の統計数字を365日で割ってみました。

part 1 人口動態

1日に91人が生まれ67組が結婚

まず、人口動態をみてみましょう。人間の動向は地域を見る際の基本です。

2003年(H15)1年間に横浜市の人口は2万9509人増えて、353万2691人となりました。前年比0.84%の増加です。2002年(H14)中の3万4074人、0.98%の増加と比べると低い伸びとなっています。世帯数は146万5251世帯でした(2004年1月1日現在推計)。

その間に生まれた赤ちゃんの数は3万3271人。そして亡くなられた人の数は2万1748人でした。つまり1日に約91人の赤ちゃんが生まれ、60人近くの方が亡くなられたこととなります。

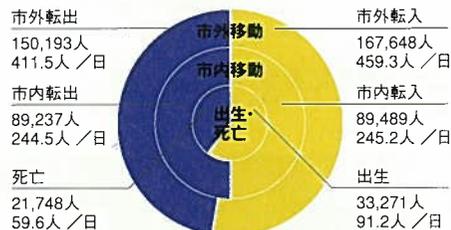
ちなみに、横浜では1日に66.6組が結婚し、22

図1 日当たりの出生・死亡数 (単位:人)



2004年1月1日現在推計

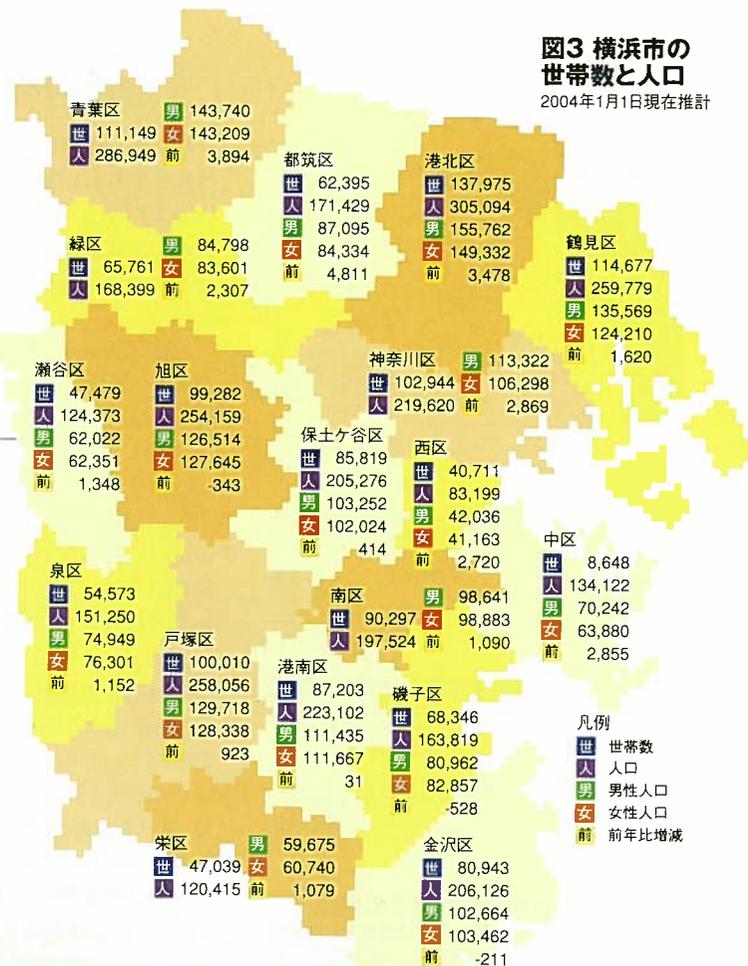
図2 横浜市の人口動態 人口総数=353万2691人 世帯数=146万5251世帯



2004年1月現在推計

組が離婚しています。離婚までの期間は5年～10年未満が一番多く、ついで20年以上、10年～15年未満の順となっています。

- part1 人口動態
- part2 卸・小売業全体
- part3 卸売業 業種別
- part4 小売業 業種別
- part5 繁華街
- part6 百貨店・スーパー



特に断りのない限りこの記事のデータは横浜市総務局行政部統計解析課提供のホームページ「統計でみる横浜」(<http://www.city.yokohama.jp/me/stat/index.>)に掲載された最新のデータを基に加工しています。

横浜

A Day of Yokohama



図4 人口密度と世帯当たり人員

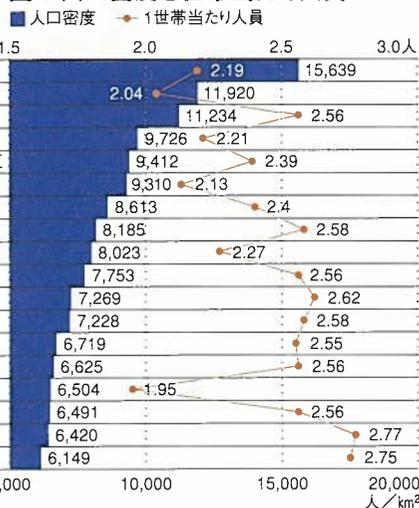
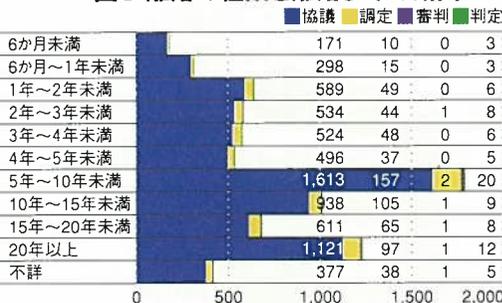


図5 1日当たり婚姻件数と離婚件数



(単位:組)

図6 離婚の種類と離婚までの期間



1日約565世帯の引越

横浜市では、2003年1年間に15万193人の市外転出があり、16万7648人の市外転入がありました。また、8万9237人が市内転出し、8万9489人が市内転入しました。これは転入・転出にともなって毎日約565世帯の引越が発生したことになります。

総転入数から総転出数を差し引いた人口増減を社会増減といいます。この増加数が多かった上位5区は、緑区3545人、戸塚区3174人、中区2912人、都筑区2780人、青葉区1986人の順でした。

2003年度、区別の人口増加数が多かった上位5区は、都筑区4811人増、青葉区3894人増、港北区3478人増、神奈川区2869人増、中区2855人増の順でした。

逆に減少したのは、磯子区528人減、旭区343人減、金沢区211人減でした。

1世帯当たりの人員は、市平均で2.41人。1985年(S60)の2.91人から約0.5人の減少となっています。1世帯当たりの人員が多い上位5区は、泉区2.77人、都筑区2.75人、瀬谷区2.62人、青葉区戸塚区の2.58人の順。

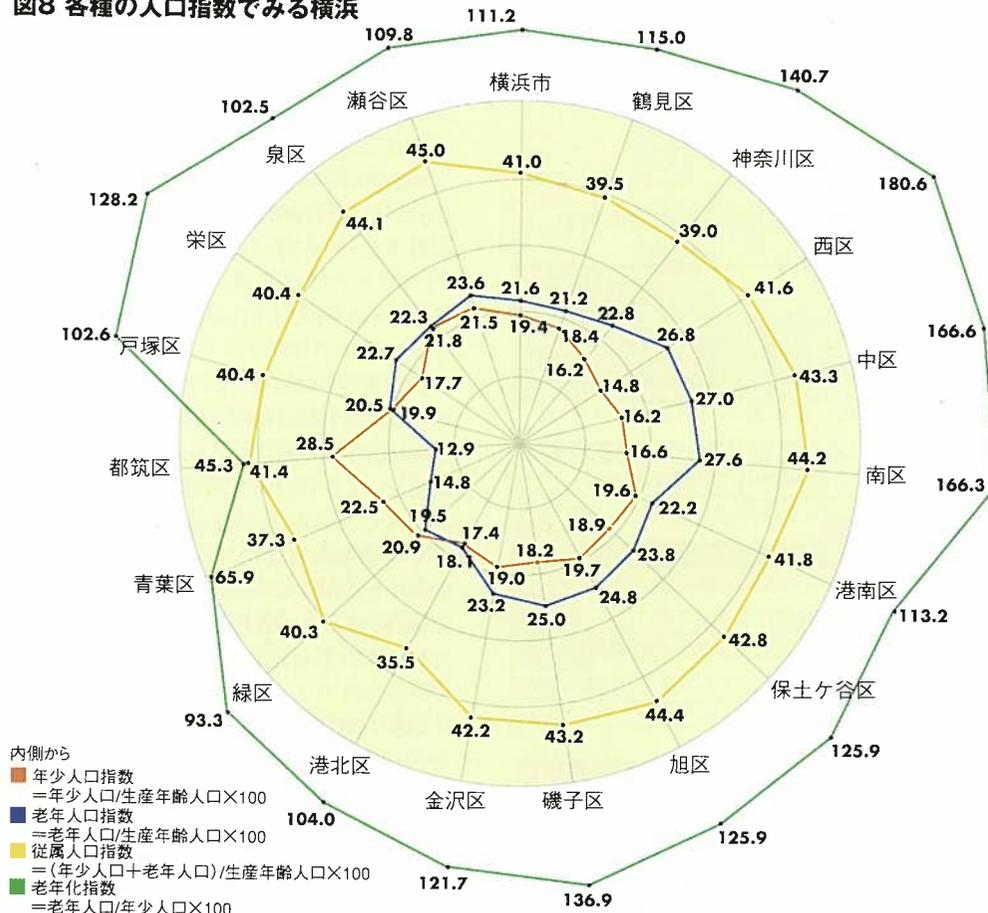
逆に人員の少ない下位5区は、中区1.95人、西区2.04人、神奈川区2.13人、南区2.19人、港北区2.21人の順でした。

働き盛りの多い港北、青葉、神奈川

年少人口と老年人口を足して生産年齢人口で割ったものを従属人口指数といいます。生産年齢人口(15歳～65歳)に対する年少人口(15歳未満)と老年人口(65歳以上)の相対的な大きさをあらわすものです。年金問題などで、生産年齢人口の扶養負担の程度をあらわす指標としてしばしば利用されています。

横浜市のそれは、全国平均の48.7%(国立社会保障・人口問題研究所発表の中位推計)に

図8 各種の人口指数でみる横浜



対して41.0%と低い数字となっています。つまり「働き盛りの多い街」といえます。

人口指数的に見て、市内で最も「働き盛り」が多い上位3区は、港北区35.5%、青葉区37.3%、神奈川区39.0%となっています。

市内で最も老年人口指数が低いのは、都筑区12.9%で、以下青葉区14.8%、港北区18.1%と続きます。都築区、青葉区は年少人口指数も高く、このことは両区がこどもをかかえた若い世代が多いことを意味しています。

逆に、お年寄りの多い上位3区は、南区27.6%、中区27.0%、西区26.8%で、これらの区では、老年化指数も西区180.6%、中区166.6%、南区166.3%と高くなっています。

全国平均の従属人口指数は生産年齢人口の縮小傾向のもとで、現在の48.7%水準から2022年(H34)年には67%水準にまで上昇し、その後2050年(H62)に87%に達するものと予測されています。横浜市だけがその例外となることはありません。



part 2

卸・小売業全体

図9 事業所・従業者数・販売額の比較

■ 卸売業 ■ 小売業

販売額 (億円)	60,593 (-20.1%)	36,181 (-7.6%)	2002年
	75,880	60,593	1999年
従業者数 (人)	71,394 (-12.2%)	185,339 (-2.8%)	2002年
	81,338	190,809	1999年
事業所数	6,560 (-8.6%)	22,860 (-7.2%)	2002年
	7,174	24,629	1999年

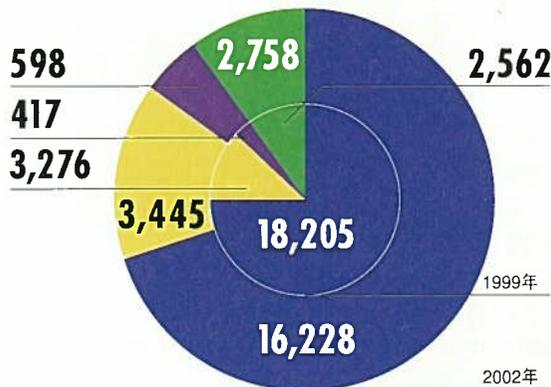
図10 卸・小売業の1日当たり商品販売額

■ 卸売業 ■ 小売業 ■ 総数 (2002年調査)

販売額	166.0億円
	99.1億円
	265.1億円
従業者1人当たり	232,524円
	53,466円
	103,248円
事業所当たり	2,530,610円
	433,620円
	901,200円

図11 小売業の売場面積規模別事業所数

■ 100㎡未満 (単位:か所)
 ■ 100㎡以上500㎡未満
 ■ 500㎡以上
 ■ 売場面積の調査を行っていない事業所



市民当たり1430円の販売額減少

次に、「横浜の商いの1日」を、「平成14年商業統計調査 横浜市結果速報」でみていくことにしましょう。

横浜市の年間商品販売額は9兆6774億円。これは1日当たり265.1億円になります。さらにこの数字を、それぞれ全事業所数、全従業員数そして市民人口で割ると、事業所当たり90.1万円、従業員当たり10.3万円、市民1人当たり7582円に当たります。(図9)

前回調査(1999年7月実施。以下「前回」という)と比較すると1兆8250億円(15.9%)、1日当たり50億円の減少となっています。これは、事業所当たり17.0万円減、従業員当たり1.9万円減、市民当たり1430円減となります。

年間商品販売額が10兆円を下回ったのは1988年(S63)調査以来のことで、ピーク時(1991年調査、12兆6404億円、1日当たり346億円)と比較すると、年間商品販売額は約4分の3となっています。

これらの数字は全体として、バブル景気崩壊後の個人消費低迷が継続し、厳しい経営環境や雇用状況が続いていることを示しています。

図12 小売業の売場面積の比較

(単位:㎡)



小売業の標準販売額は、店舗当たり43.4万円

卸売業・小売業別に分けて商品販売額をみると、卸売業は6兆593億円(1日当たり166億円)、小売業は3兆6181億円(同99.1億円)となります。

前回と比較すると、卸売業は1兆5287億円(同41.9億円)減で20.1%減、小売業は2兆9628億円(同8.1億円)減で7.6%減となっています。商品販売額の構成比率は63%対37%。卸売業は小売業の1.7倍の販売額でした。(図9)

事業所当たりの1日当たり商品販売額は、卸売業253.1万円、小売業は43.4万円でした。従業員1人当たりの1日当たり商品販売額は、卸売業で23.3万円、小売業では5.3万円でした。(図10)

卸売業では、従業者数で12.2%減、年間商品販売額で20.1%減と2桁の減少率を示しました。小売店とメーカーとの直接取引がすすみ流通経路の短縮化、効率化が図られている結果と推測されます。

小売業では売場面積が9万7646㎡(3.7%)増加していますが、これは、小売業の事業所数が1769事業所(7.2%)減となっている一方で、

表1 卸売業の事業所数・従業員数・商品販売額 (増加率は対99年)

	事業所数		従業員数		年間商品販売額		1日商品販売額			
	2002年(か所)	増加率(%)	2002年(人)	増加率(%)	2002年(億円)	増加率(%)	2002年(億円)	事業所当たり(万円)	従業員1人当たり(万円)	市民当たり(円)
1 卸売業計	6,560	-8.6	71,394	-12.2	60,593.0	-20.1	166.0	253.1	5.3	???
2 各種商品	20	-44.4	264	7.3	349.3	47.5	1.0	478.5	36.3	27
3 繊維品	27	-50.0	170	-40.1	89.8	-46.8	0.2	91.2	14.5	7
4 衣服・身の回り品	271	-8.8	2,474	-11.3	1,331.0	-36.3	3.6	134.6	14.7	104
5 農畜産物・水産物	590	-9.0	7,467	-3.6	6,124.2	-22.5	16.8	284.4	22.5	480
6 食料・飲料	735	-9.8	8,205	-25.0	9,043.1	-27.9	24.8	337.1	30.2	708
7 建築材料	824	-5.7	6,484	-9.9	6,486.4	-15.5	17.8	215.7	27.4	508
8 化学製品	226	3.7	1,750	-4.7	1,126.6	-1.2	3.1	136.6	17.6	88
9 鉱物・金属材料	278	-7.0	2,729	1.8	4,230.6	12.7	11.6	416.9	42.5	331
10 再生資源	197	-12.4	1,097	-37.1	219.4	-22.3	0.6	30.5	5.5	17
11 一般機械器具	665	-5.4	6,351	-10.4	4,474.5	-6.0	12.3	184.3	19.3	351
12 自動車	364	-8.1	4,443	-32.0	3,386.3	-52.7	9.3	254.9	20.9	265
13 電気機械器具	657	-6.1	11,620	-4.1	11,766.6	-20.6	32.2	490.7	27.7	922
14 その他の機械器具	297	-17.5	3,345	-7.3	2,410.1	-5.9	6.6	222.3	19.7	189
15 家具・建具・じゅう器等	301	-2.9	2,817	-4.9	1,274.0	-11.0	3.5	116.0	12.4	100
16 医薬品・化粧品等	310	-23.8	4,781	-16.9	4,050.7	3.4	11.1	358.0	23.2	317
17 他に分類されない	798	-4.1	7,397	-5.4	4,230.2	-22.3	11.6	145.2	15.7	331

500㎡以上の大型店は増加となっていることが原因と考えられます。(図11,12)

part 3

卸売業業種別

1日9.6億円の減少となった食料・飲料卸売業

16業種中12業種で事業所数、従業者数、年間商品販売額のいずれも減少しています。特に「食料・飲料卸売業」が大きく減少しています。

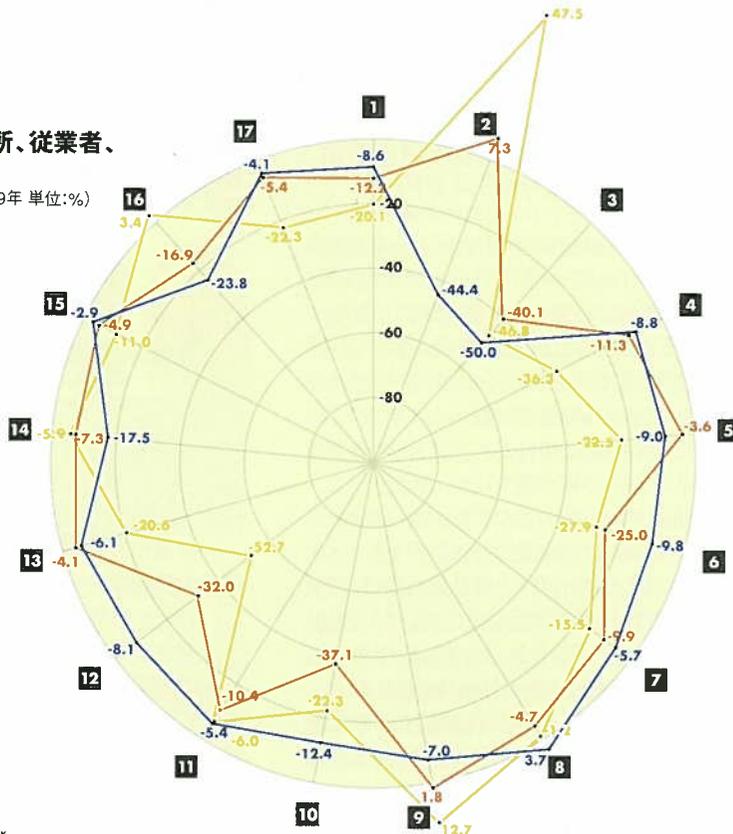
業種別に年間商品販売額を前回と比較すると、16業種中13業種で減少、3業種で増加となっています。最も減少額の大きい業種は「自動車卸売業」で3768.5億円(1日当たり10.3億円)52.7%減でした。ただしこの数字には、産業小分類の定義変更による年間商品販売減少額が含まれているため、その額が大きくなっています。(表1)

図13 卸売業事業所、従業者、販売額増加率

(2002年調査 増加率は対99年 単位:%)

内側から
 ■ 事業所増加率 (%)
 ■ 従業者数増加率 (%)
 ■ 販売額増加率 (%)

- 1 卸売業計
- 2 各種商品
- 3 繊維品
- 4 衣類・身の回り品
- 5 農畜産物・水産物
- 6 食料・飲料
- 7 建築材料
- 8 化学製品
- 9 鉱物・金属材料
- 10 再生資源
- 11 一般機械器具
- 12 自動車
- 13 電気機械器具
- 14 その他の機械器具
- 15 家具・建具・じゅう器等
- 16 医薬品・化粧品等
- 17 他に分類されない卸売業



以下、減少額の大きい上位4業種は次の通りです。

「食料・飲料卸売業」3495.6億円(1日当たり9.6億円)27.9%減、「電気機械器具卸売業」3051.7億円(同8.4億円)20.6%減、「農畜産物・水産物卸売業」1781.5億円(同4.9億円)22.5%減、「他に分類されない卸売業」1216.2億円(同3.3億円)22.3%減。(表1)

一方、増加額の大きい業種は、「鉱物・金属材料等卸売業」で476.2億円(1日当たり1.3億円)12.7%増でした。以下、「医薬品・化粧品等卸売業」131.4億円(同0.4億円)3.4%増、「各種商品卸売業」112.4億円(同0.3億円)47.5%増と続きます。ここには鉄鋼卸売業や石油卸売業が含まれます。(表1)

1日32.2億円、事業所当たり490万円を販売する電気機械器具卸売業

1日当たりの商品販売額の大きい業種は「電気機械器具卸売業」の32.2億円を筆頭に、以下、「食料・飲料卸売業」24.8億円、「建築材料卸売業」17.8億円、「農畜産物・水産物卸売業」16.8億円、「一般機械器具卸売業」12.3億円の順となりますが、この5業種で全体の62.5%を占めています。(表1)

事業所当たりの1日販売額が大きい上位5業種は、「電気機械器具卸売業」490.7万円、「各種商品卸売業」478.5万円、「鉱物・金属材料等卸売業」416.9万円、「医薬品・化粧品等卸売業」358.0万円、「食料・飲料卸売業」337.1万円でした。

同様に、従業員当たりの1日販売額が大きい上位5業種は、「鉱物・金属材料等卸売業」42.5万円、「各種商品卸売業」36.3万円、「食料・飲料卸売業」30.2万円、「電気機械器具卸売業」27.7万円、「建築材料卸売業」27.4万円でした。(表1)

上位5区で卸売業の70%を占有

卸売業の年間販売額の大きい上位5区は、西区、港北区、神奈川区、中区、都筑区の順です。これらの区で全体の販売額の約70%を占めます。(図14)

しかし、神奈川区、西区、中区では従業者数、年間商品販売額が大きく減少しました。また、1994年(H6)の分区以降、従業者数、年間商品販売額で増加が続いていた緑区、青葉区、都筑区も減少に転じました。

最も減少額が大きかったのは中区で5065億円(1日当たり13.9億円)38.9%減でした。以下、神奈川区2394億円(同6.6億円)22.4%減、西区2045億円(同5.6億円)14.4%減、都筑区1165億円(同3.2億円)23.8%減、港北区1035億円(同2.8億円)9.3%減の順でした。

前回から増となったのは戸塚区のみで、290億円(同0.8億円)15.8%増でした。

図14 卸売業・小売業の1日販売額 (2002年調査 単位:億円)

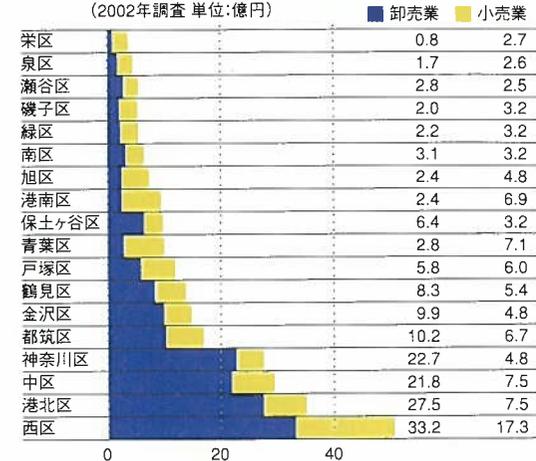
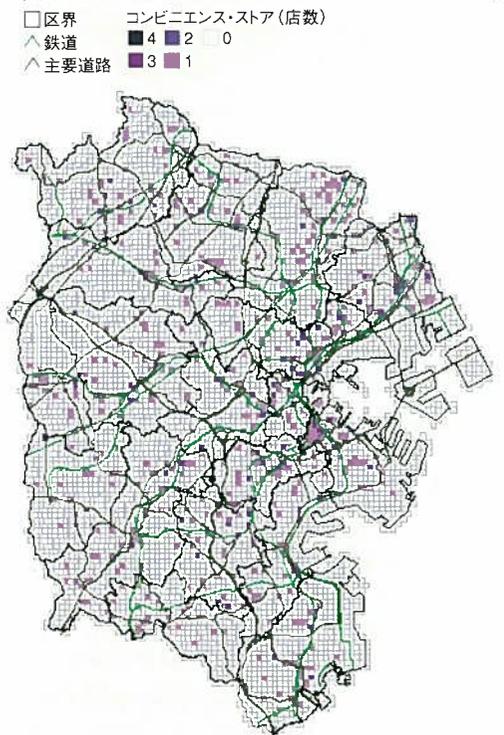


図15 コンビニエンス・ストア分布 (1997年調査)



part 4 **小売業 業種別**

1日3億円の減少となった百貨店・スーパーの販売額

小売業では、28業種中17業種で事業所数、従業者数、年間商品販売額が減少しました。逆に、それらがいずれも増加したのは「その他の飲食料品小売業」「医薬品・化粧品小売業」「自

転車小売業」でした。(表2)

1日当たりの商品販売額が大きい上位5位は、「百貨店、総合スーパー」18.8億円、「その他の飲食料品小売業」15.2億円、「自動車小売業」10.9億円、「各種食料品小売業」9.4億円、「機械器具小売業」6.0億円。これら5業種で全体の78.3%を構成しています。(表2)

小売業全体で前回と比べてもっとも減少額の大きい業種は「百貨店、総合スーパー」で、1103億円(1日当たり3.0億円)13.8%の減少でした。

以下、販売金額の減少が多い順に「各種食料品小売業」1042.3億円(同2.9億円)23.2%減、「機械器具小売業」655.0億円(同1.8億円)23.0%減、「酒小売業」377億円(同1.0億円)

31.8%減、「婦人・子供服小売業」265.0億円(同0.7億円)14.3%減となります。(表2)

**それでも従業員・事業所あたりでは
トップの百貨店・スーパー**

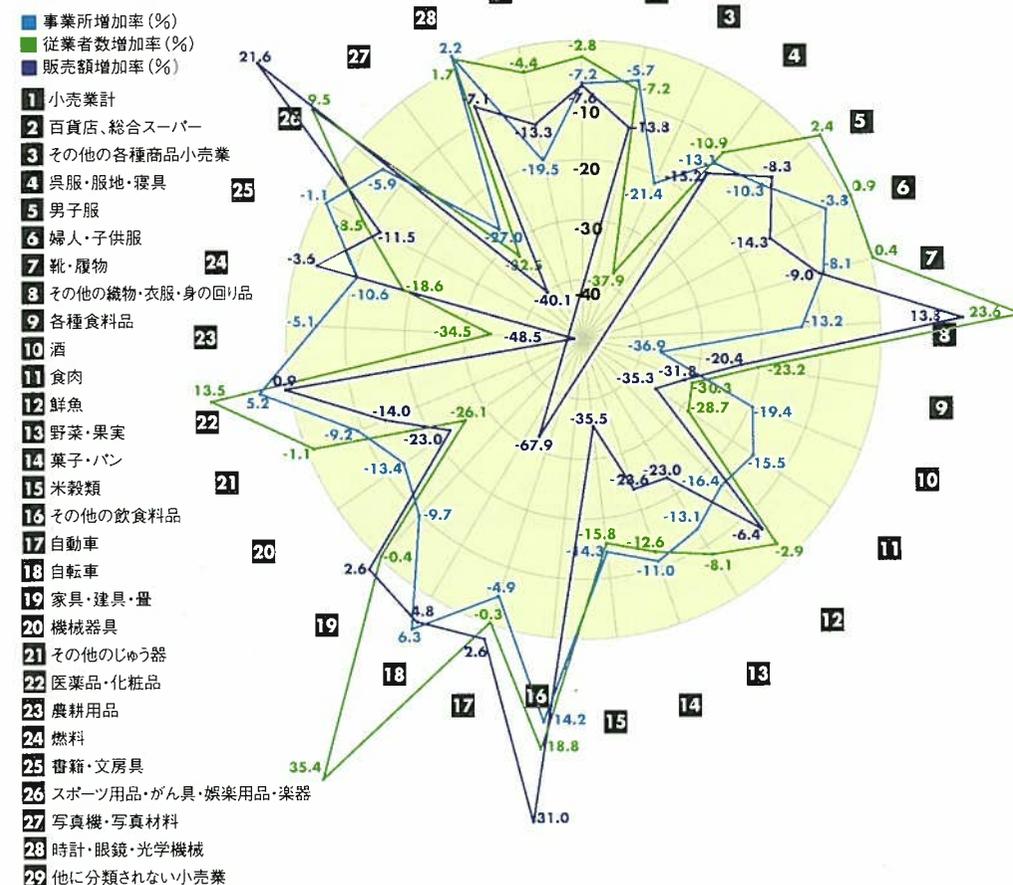
前回と比べて年間販売額が増加した上位5業種は以下の通りです。「その他の飲食料品小売業」1311.4億円(1日当たり3.6億円)31.0%増、「スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器小売業」192.9億円(同0.5億円)21.6%増、「自動車小売業」99.1億円(同0.3億円)2.6%増。「その他の織物・衣服・身の回り品小売業」81億円(同0.2億円)13.8%増。「医薬品・化粧品小売業」16.7億円(同0.05億円)0.9%増。(図16)

表2 小売業の事業所数・従業員数・商品販売額 (増加率は対99年)

	事業所数		従業員数		年間商品販売額		1日商品販売額				
	2002年 (カ所)	増加率 (%)	2002年 (人)	増加率 (%)	2002年 (億円)	増加率 (%)	2002年 (億円)	事業所 当り(万円)	従業員1人 当り(万円)	市民 当り(円)	売場面積1㎡ 当り(円)
1 小売業計	22,860	-7.2	185,339	-7.8	36,181	-7.6	99.12	43.4	5.3	2,806	3,596
2 百貨店、総合スーパー	50	-5.7	17,270	-7.2	6,866	-13.8	18.8	3,762.3	10.9	533	2,863
3 その他の各種商品小売業	44	-21.4	313	-37.9	40	-67.9	0.1	24.7	3.5	3	2,312
4 呉服・服地・寝具	418	-13.1	1,538	-10.9	192	-15.2	0.5	12.6	3.4	15	2,096
5 男子服	463	-10.3	2,323	2.4	458	-8.3	1.3	27.1	5.4	36	1,343
6 婦人・子供服	1,744	-3.8	8,306	0.9	1,588	-14.3	4.4	24.9	5.2	123	2,391
7 靴・履物	307	-8.1	1,204	0.4	198	-9.0	0.5	17.7	4.5	15	2,326
8 その他の織物・衣服・身の回り品	676	-13.2	4,345	23.6	668	13.8	1.8	27.1	4.2	52	2,616
9 各種食料品	409	-36.9	15,197	-20.4	3,443	-23.2	9.4	230.6	6.2	267	3,657
10 酒	875	-19.4	3,562	-30.3	811	-31.8	2.2	25.4	6.2	63	4,226
11 食肉	375	-15.5	1,569	-28.7	197	-35.3	0.5	14.4	3.4	15	3,372
12 鮮魚	372	-16.4	1,688	-2.9	263	-6.4	0.7	19.4	4.3	20	4,631
13 野菜・果実	708	-13.1	3,136	-8.1	387	-23.0	1.1	15.0	3.4	30	3,183
14 菓子・パン	1,444	-11.0	8,596	-12.6	486	-23.6	1.3	9.2	1.6	38	2,867
15 米穀類	378	-14.3	1,006	-15.8	117	-35.5	0.3	8.5	3.2	9	2,458
16 その他の飲食料品	3,949	14.2	44,078	18.8	5,538	31.0	15.2	38.4	3.4	429	4,382
17 自動車	1,176	-4.9	11,052	-0.3	3,974	2.6	10.9	92.6	9.9	308	19,667
18 自転車	134	6.3	279	35.4	17	4.8	0.0	3.6	1.7	1	740
19 家具・建具・畳	577	-9.7	2,545	-0.4	469	2.6	1.3	22.3	5.1	36	1,155
20 機械器具	909	-13.4	6,012	-26.1	2,198	-23.0	6.0	66.3	10.0	170	4,648
21 その他のじゅう器	482	-9.2	2,495	-1.1	400	-14.0	1.1	22.7	4.4	31	1,548
22 医薬品・化粧品	1,753	5.2	11,645	13.5	1,908	0.9	5.2	29.8	4.5	148	4,138
23 農耕用品	37	-5.1	135	-34.5	16	-48.5	0.0	12.1	3.3	1	1,322
24 燃料	701	-10.6	6,511	-18.6	1,733	-3.6	4.7	67.7	7.3	134	72,739
25 書籍・文房具	1,191	-1.1	13,203	-8.5	1,309	-11.5	3.6	30.1	2.7	102	3,964
26 スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器	675	-5.9	4,686	9.5	1,085	21.6	3.0	44.0	6.3	84	2,209
27 写真機・写真材料	100	-27.0	465	-32.5	50	-40.1	0.1	13.6	2.9	4	2,897
28 時計・眼鏡・光学機械	420	2.2	1,845	1.7	285	-7.1	0.8	18.6	4.2	22	2,641
29 他に分類されない小売業	2,493	-19.5	10,395	-4.4	1,483	-13.3	4.1	16.3	3.9	115	2,696

図16 小売業事業所・従業員・販売額増加率

(2002年調査 増加率は対99年 単位:%)



従業員1人当たりの1日商品販売額が大きい上位5業種は、「百貨店、総合スーパー」10.9万円、「機械器具小売業」10.0万円、「自動車小売業」9.9万円、「燃料小売業」7.3万円、「スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器小売業」6.3万円。(表2、図17)

同様に、事業所当たりの1日商品販売額が大きい上位5業種は、「百貨店、総合スーパー」3762.3万円、「各種食料品小売業」2306万円、「自

動車小売業」92.6万円、「燃料小売業」67.7万円、「機械器具小売業」66.3万円の順となっています。(表2)

**売場面積1㎡当たり4631円で
頑張る魚屋さん**

また、1㎡当たりの1日販売額が大きい上位5業種は、以下のようになっています。「燃料小売業」7万2739円、「自動車小売業」1万9667円、「機



械器具小売業」4648円、「鮮魚小売業」4631円、「その他の飲食料品小売業」4382円。(表2)

燃料小売業では、事業所数10.6%減、従業者数18.6%減、売場面積35.6%減となった結果、年間販売額では3.6%減のところを従業員1人当たりでは18.4%増となりました。同様な傾向は機械器具小売業にもみられます。

各区別でみると、西区で事業所数、従業者数、年間商品販売額が大きく減少した一方で、都筑区では年間商品販売額が28.1%増加しています。

**お店の違いが分かる
業種別1日販売額**

業種別に1店当たりの1日販売額を算出してみました。商品分類別の年間商品販売額を取扱商店数で除したものをさらに365日で除した値です。

「各種商品小売業(百貨店・スーパーを含む)」を除いた小売業全体での上位5位は、「乗用車(新車)」の1日1店当たり168.3万円を筆頭に、「ブタンガス」55.5万円、「家庭用電気事務機械器具」49.2万円、「揮発油」48.4万円、「乗用車(中古)」47.9万円の順となっています。(表3)

同様にサービス業では、「情報サービス・調査業」311.9万円、「協同組合」260.1万円、「社会保険、社会福祉」244万円、「映画・ビデオ制作業、放送業、広告業」222.5万円、「娯楽業」144.1万円の順でした。(表4)

図17 従業員1人当たりの1日商品販売額 (単位:万円)

菓子・パン	¥¥¥ 1.6
自転車	¥¥¥ 1.7
書籍・文房具	¥¥¥¥ 2.7
写真機・写真材料	¥¥¥¥ 2.9
米穀類	¥¥¥¥ 3.2
農耕用品	¥¥¥¥ 3.3
その他の飲食料品	¥¥¥¥ 3.4
食肉	¥¥¥¥ 3.4
呉服・服地・寝具	¥¥¥¥ 3.4
野菜・果実	¥¥¥¥ 3.4
その他の各種商品	¥¥¥¥¥ 3.5
他に分類されない小売業	¥¥¥¥¥ 3.9
時計・眼鏡・光学機械	¥¥¥¥¥ 4.2
その他の織物・衣服・身の回り品	¥¥¥¥¥ 4.2
鮮魚	¥¥¥¥¥ 4.3
その他のじゅう器	¥¥¥¥¥ 4.4
靴・履物	¥¥¥¥¥ 4.5
医薬品・化粧品	¥¥¥¥¥ 4.5
家具・建具・畳	¥¥¥¥¥¥ 5.1
婦人・子供服	¥¥¥¥¥¥ 5.2
男子服	¥¥¥¥¥¥ 5.4
酒	¥¥¥¥¥¥¥ 6.2
各種食料品	¥¥¥¥¥¥¥ 6.2
スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器	¥¥¥¥¥¥¥ 6.3
燃料	¥¥¥¥¥¥¥¥ 7.3
自動車	¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥ 9.9
機械器具	¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥ 10.0
百貨店、総合スーパー	¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥ 10.9

表3 業種別事業所当たり1日販売額 (単位:万円)

飲食料品	各種商品小売業	その他
鮮魚	飲食料品 1354.7	ブタンガス 55.5
酒	婦人子供服洋品 794.5	揮発油 48.4
その他の飲食料品	その他の商品 561.4	楽器 35.8
食肉	紳士服・洋品 341.3	スポーツ用品 30.0
野菜	身の回り品 302.8	プロパンガス 29.1
パン(製造)	家庭用品 176.5	新聞 19.9
料理品	食堂・喫茶 158.2	貴金属製品(宝石を含む) 18.7
豆腐・かまぼこ等(非製造)	その他の衣料品 157.0	時計・眼鏡・光学機械 15.6
果物	家具 120.1	軽油 15.4
米穀類	家庭用電気機械器具 105.7	写真機・写真材料 15.3
乾物	織物・衣服・身の回り品	医薬品 13.9
菓子(製造)	男子服(非製造) 19.7	苗・種子 11.7
菓子(非製造)	婦人・子供服 14.6	書籍・雑誌 10.7
牛乳	呉服・服地 12.9	化粧品 10.2
パン(非製造)	靴 12.3	その他 9.5
豆腐・かまぼこ等(製造)	寝具 12.2	がん具・娯楽用品 9.5
卵・鳥肉	かばん・袋物 8.2	みやげ品 8.5
茶類	他の衣服・身の回り品 7.7	農業用機械器具 8.0
家具・じゅう器・家庭用機械器具	下着類 4.4	花・植木 7.2
家庭用電気事務機械器具	男子服(製造) 3.7	建築材料 6.6
家具(非製造)	小間物・化粧品 3.6	肥料・飼料 5.8
家庭用電気機械器具	履物(靴を除く) 1.1	紙・文房具 5.4
宗教用具(非製造)	自動車・自転車	たばこ・喫煙具 5.2
他の家庭用機械器具	乗用車(新車) 168.3	重油 4.1
他のじゅう器	乗用車(中古) 47.9	他の中古品 4.1
宗教用具(製造)	トラック(新車) 34.8	他の石油 3.9
じゅうたん・カーテン	自動車部分品・付属品 17.2	骨とう品 3.7
金物	二輪自動車 12.3	灯油 2.5
ミンシ・絹機	トラック(中古) 7.6	他の非石油系燃料 1.3
荒物	自転車 4.0	
建具(非製造)		
畳(製造)		
家具(製造)		
建具(製造)		
陶磁器・ガラス器		
畳(非製造)		

資料:「平成9年(1997)商業統計調査結果報告」

表4 サービス業の事業所当たり1日の収入 (単位:万円)

洗濯業	9.5	情報サービス・調査業	311.9
理容業	3.9	専門サービス業(他に分類されないもの)	22.0
美容業	8.2	うち土木建築サービス業	32.6
駐車場業	6.4	協同組合(他に分類されないもの)	260.1
その他の生活関連サービス業	27.1	その他の事業サービス業	88.7
旅館、その他の宿泊所	52.8	廃棄物処理業	124.5
旅館	144.1	医療業(病院を除く)、保健衛生	15.1
娯楽業(映画・ビデオ制作業を除く)	148.8	社会保険、社会福祉	244.0
うちスポーツ施設提供業	50.3	教育(学校を除く)、学術研究機関	118.5
自動車整備業	33.6	宗教	11.3
機械・家具等修理業	48.7	政治・経済・文化団体	32.2
物品賃貸業	126.8	その他のサービス業	44.2
映画・ビデオ制作業、放送業、広告業	222.5		

資料:総務省統計局「平成11年(2002)サービス業基本調査報告第2巻地域編」

part 5 繁華街

市内全体の乗降数の4分の1を占める横浜駅

ある地域の構成比と全体の構成比との割合を示したものを特化係数といいます。1を超えていれば全国平均と比べてその業態への特化の度合いが高いことを示すものです。

1997年(H9)の年間商品販売額の業態別特化係数で、全国に対する横浜市の特化係数をみると、「百貨店」(特価係数1.97)が最も高く、以下「コンビニ」(同1.26)、「総合スーパー」(同1.20)の順になります。

横浜はこれらの3業態が全国と比較して際立っています。なかでも西区は7.32と高くなっていますが、これはJR、私鉄、市営地下鉄などが集中する横浜駅周辺に「百貨店」が集まっているためです。

ちなみにJR、東急東横線、京浜急行、相模鉄道、市営地下鉄を含めた横浜駅の1日乗降数は、93万3593人(2002年)です。横浜を中核とする鉄道駅は2月1日に開業した「みなとみらい線」を除いて153駅(一部横浜市外を含む)あり、その1日の乗降数は364万5589人ですが、横浜駅での乗降数は約4分の1の25.6%を占めます。また、2004年1月末に廃駅となった東急東横線桜木町駅のそれは4万8881人でした。

売場面積当たりでは横浜駅西口ダイヤモンド地下街が8164円でトップ

繁華街をみてみましょう。比率は1997年(H9)との比較を意味します。年間商品販売額で見た上位5位は、横浜高島屋や三越が含まれる「横浜駅西口」(2436億円 5.25%減)、横浜そごう

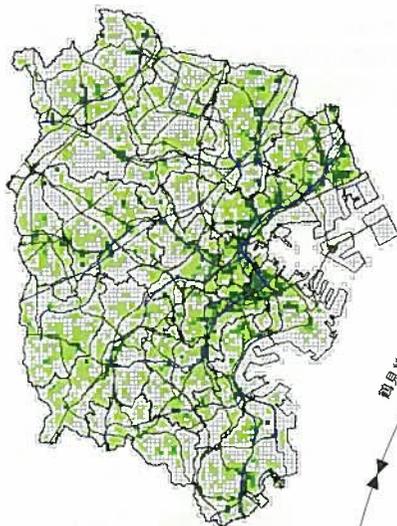


図18 小売業商店数 (1997年調査)

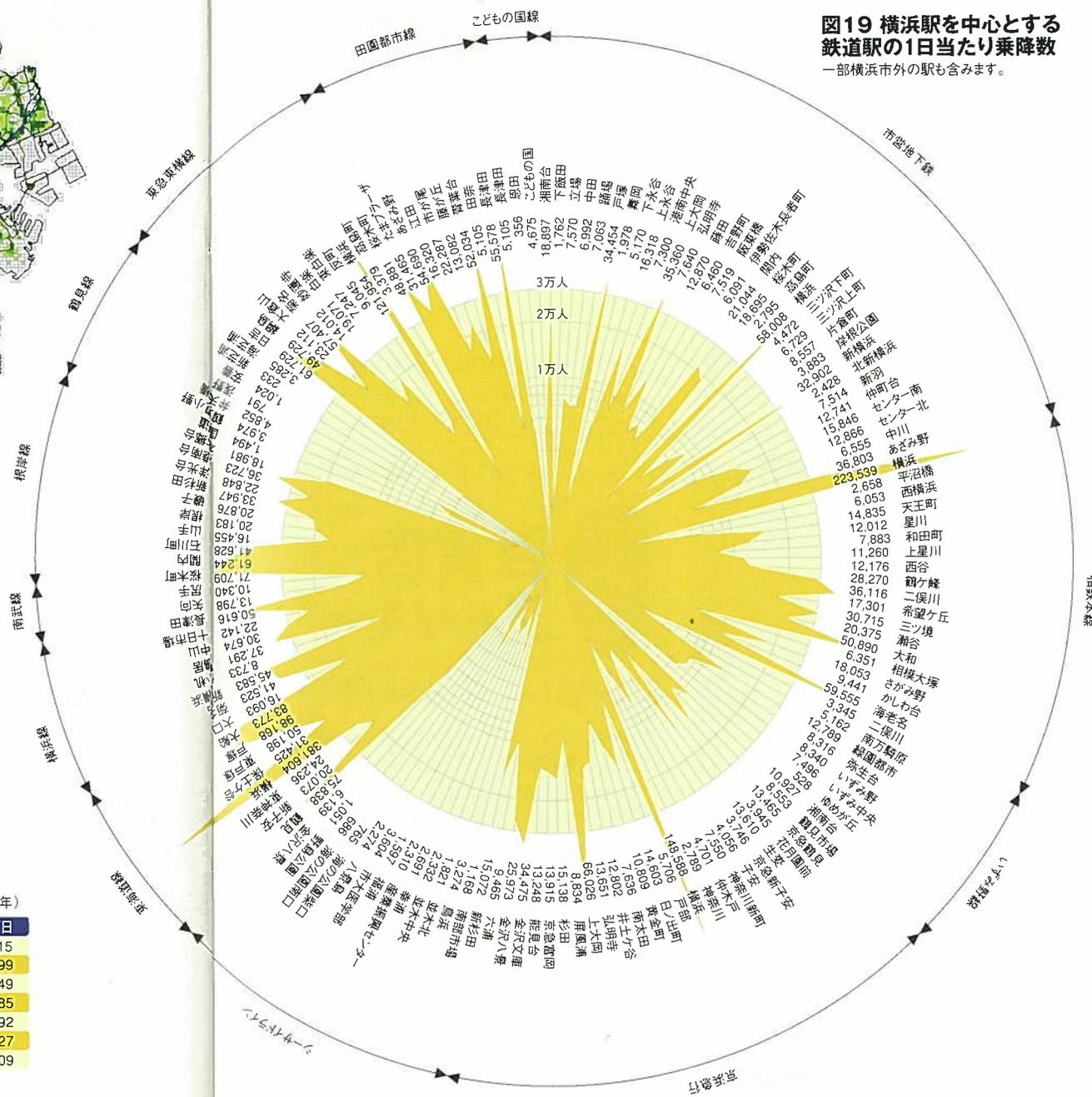
- 区界
- △ 鉄道
- △ 主要道路
- 小売業商店数(H9)
- 21以上
- 11~20
- 6~10
- 1~5
- データなし

表5 バス乗車人員数 (2001年)

バス会社	乗車人員/日
江ノ島電鉄	9,915
神奈川中央交通	160,699
川崎鶴見臨港バス	40,249
京浜急行電鉄	21,085
相模鉄道	72,392
東急バス	129,427
市営バス	465,009

資料:横浜市交通局ほか

図19 横浜駅を中心とする鉄道駅の1日当たり乗降数 一部横浜市外の駅も含まれます。



が含まれる「横浜駅東口」(1273億円 24.75%減)、ウイング上大岡やイトーヨーカ堂、ダイエーのある「上大岡」(745億円 9.84%増)、ダイエー、ビブレ21、東急ハンズなどがある「南幸二丁目」(588億円 6.74%減)、東急ショッピングセンター、イトーヨーカ堂がある「たまプラーザ」(518億円 12.12%減)となります。(表6)

しかし、1日当たりの商品販売額では、「横浜駅西口」(1711万円)、「横浜駅東口」(1162万円)、「南幸二丁目」(183万円)、「地下鉄センター南駅周辺」(127万円)、「東戸塚駅東口」(117万円)の順となります。(表6)

売場面積1m当たりの商品販売額が最も高いのは、「横浜駅西口ダイヤモンド地下街」の

8164円です。つづいて「横浜駅西口駅ビル=シアル」(7342円)、「横浜駅西口」(6904円)、「横浜駅東口地下街(ポルタ)」(5644円)、「横浜駅東口駅ビル(ルミネ)」(5479円)となり、上位5位を横浜駅周辺の繁華街で独占しています。ちなみに、10位までで見ても7繁華街が横浜駅周辺で独占されています。

従業員当たり1日の商品販売額の上位5位は、「横浜駅西口」(22.4万円)、「横浜駅東口」(20.1万円)、「南幸二丁目」(9.1万円)、「地下鉄センター南駅周辺」(8.3万円)、「たまプラーザ」(8.2万円)となります。(表6)

ちなみに、横浜市の繁華街の1日当たり平均商品販売額は、1商店当たりで67.1万円、従業員当たりで4.8万円、1m当たりで2976円となっています。(表6)

図20 小売業全体と繁華街の比較

(2002年調査 数字は小売業全体を100とした場合の指数です)

■ 小売業全体 ■ 繁華街



図21 百貨店とスーパーの1日販売額

■ スーパー ■ 百貨店 (2002年調査)

売場面積1m当たり	2,445円	3,524円
事業所当たり	12,400,000円	82,900,000円
従業員1人当たり	85,000円	243,000円
市民1人当たり	404円	383円

part 6 百貨店・スーパー

百貨店とスーパーの性格の違い

2002年(H14)の市内大型小売店販売実績によると、横浜の「百貨店」と「スーパー」を合わせた商品販売額は9906億円でした。

その内訳は、「百貨店」(4839億円)、「スーパー」(5067億円)。これを営業日数(361.3日)で割って、市民1人当たりで換算すると、「百貨店」(383円)、「スーパー」(404円)となります。

市民1人当たり換算で扱ひ品目を見ていくと、「スーパー」では、販売金額のトップにくるのは、「飲料品」(237円)ですが、「百貨店」では、「衣料品」(175円)となります。

従業員当たりの販売額では、「百貨店」(24.3万円)に対して、「スーパー」(8.5万円)となります。

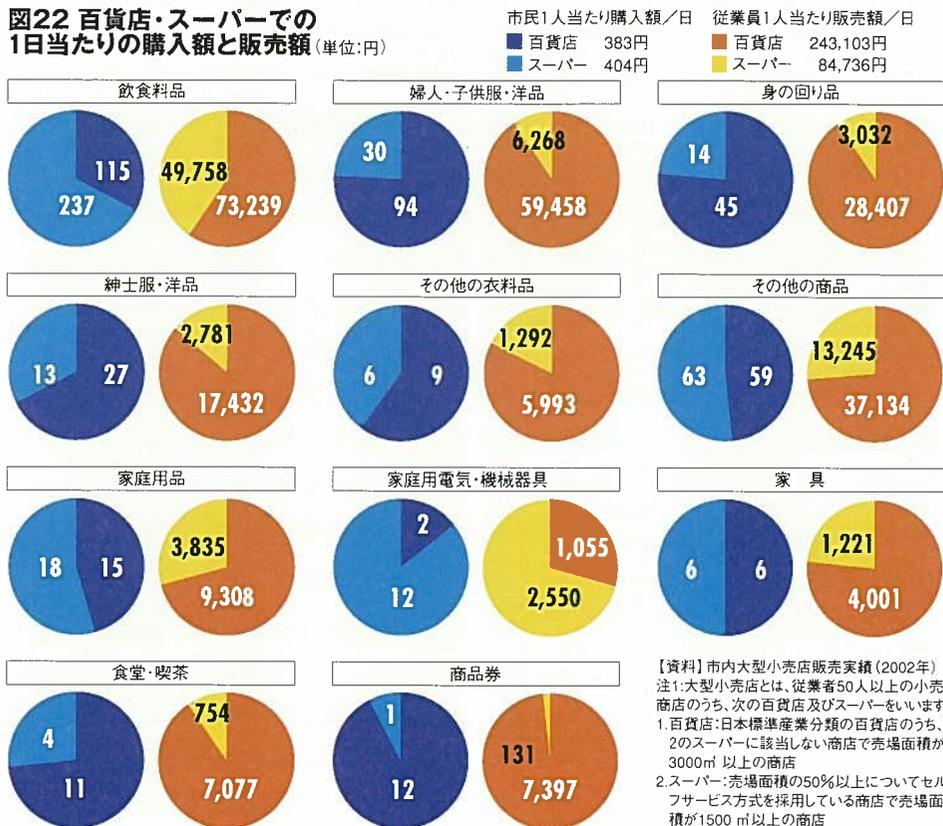
表6 各繁華街の1日当たり商品販売額 (1999年調査 単位:万円 1m当たりは円)

繁華街名	区	商店当たり	従業員1人当たり	1m当たり	繁華街名	区	商店当たり	従業員1人当たり	1m当たり
横浜市平均		67.1	4.8	2,976	中山	緑区	39.3	4.4	1,890
横浜駅西口	西区	1,711.2	22.4	6,904	野毛町、花咲町1丁目	中区	18.1	4.2	4,301
横浜駅東口	西区	1,162.2	20.1	4,137	妙蓮寺	港北区	24.4	4.2	3,836
南幸二丁目	西区	183.2	9.1	3,233	鶴ヶ峰駅前商店街	旭区	28.0	4.2	3,452
地下鉄センター南駅周辺	都築区	126.8	8.3	1,808	市ヶ尾	青葉区	37.6	4.2	2,904
たまプラーザ	青葉区	101.4	8.2	3,233	二俣川北口商店街	旭区	40.3	4.2	2,685
日吉	港北区	56.9	7.4	4,164	伊勢佐木町6・7丁目	中区	15.4	4.2	1,534
上大岡	港南区	94.9	7.2	2,685	伊勢佐木町3~5丁目	中区	25.3	4.1	2,548
モザイクモール港北	都築区	66.2	7.2	1,753	天神橋周辺	栄区	24.4	4.0	2,110
横浜駅西口ダイヤモンド地下街	西区	55.7	7.1	8,164	佃野	鶴見区	16.7	3.9	3,534
横浜駅東口地下街(ポルタ)	西区	44.6	7.0	5,644	瀬谷	瀬谷区	30.2	3.9	2,767
横浜駅東口駅ビル(ルミネ)	西区	52.8	6.9	5,479	長津田	緑区	25.4	3.9	2,164
港南台駅周辺	港南区	73.6	6.5	2,685	中華街	中区	25.5	3.8	3,671
みなとみらい	西区	86.1	6.5	2,137	矢向	鶴見区	19.8	3.8	3,397
伊勢佐木町1・2丁目	中区	76.4	6.4	1,945	横浜橋通り	南区	17.1	3.7	3,863
あざみ野	青葉区	65.8	6.3	2,466	大倉山	港北区	29.5	3.7	3,288
戸塚駅東口	戸塚区	96.8	6.3	2,384	中田	泉区	32.0	3.7	1,699
横浜ベイサイドマリーナ	金沢区	41.4	6.1	2,411	保土ヶ谷駅周辺	保土ヶ谷区	29.2	3.6	3,890
浜周辺	磯子区	46.9	6.0	2,219	石川町	中区	13.7	3.6	2,932
東戸塚	戸塚区	116.5	6.0	1,863	希望が丘駅前商店街	旭区	21.3	3.6	2,685
横浜駅西口岡田屋モアーズ	西区	41.5	5.8	3,068	戸部	西区	15.1	3.6	2,575
松原商店街	保土ヶ谷区	32.3	5.4	5,068	鶴見銀座	鶴見区	22.0	3.6	2,521
菊名	港北区	38.6	5.3	3,726	芹が谷	港南区	19.7	3.6	2,521
金沢文庫駅西口	金沢区	56.9	5.3	3,178	西谷	保土ヶ谷区	17.8	3.6	1,863
立場	泉区	48.5	5.2	3,260	北永田	南区	23.6	3.5	2,904
サニーマート・ユニオンセンター	金沢区	53.1	5.2	2,493	上末吉、下末吉	鶴見区	15.2	3.5	1,918
今宿商店街	旭区	38.6	5.2	1,452	伊勢町	西区	24.3	3.4	5,205
元町	中区	33.4	5.1	3,178	市場	鶴見区	16.3	3.4	2,904
豊岡	鶴見区	62.9	5.1	3,123	久保町連合	西区	12.2	3.3	3,068
鴨居	緑区	51.3	5.1	3,041	能見台駅前	金沢区	17.5	3.3	3,041
相鉄ジョイナス	西区	37.7	4.9	4,986	上野町、麦田	中区	14.3	3.3	1,589
二俣川南口商店街	旭区	52.3	4.8	2,740	弘明寺	南区	17.8	3.2	2,301
MYCAL本牧	中区	72.8	4.8	2,110	本郷町、本牧町	中区	17.2	3.1	2,932
天王町	保土ヶ谷区	49.2	4.8	1,836	本町通り	鶴見区	14.3	3.1	1,699
潮田	鶴見区	23.1	4.7	4,411	山元町1~3丁目	中区	13.6	3.0	3,151
上永谷駅周辺	港南区	70.6	4.7	3,260	浅間町	西区	18.7	3.0	3,068
青葉台	青葉区	53.3	4.7	2,630	六角橋	神奈川区	12.9	3.0	2,548
鶴見駅ビル	鶴見区	26.5	4.6	4,384	中央1,2丁目、藤棚、浜松町	西区	13.1	3.0	2,301
井土ヶ谷	南区	64.2	4.6	3,233	大口通り	神奈川区	14.3	3.0	2,247
洋光台	磯子区	55.0	4.6	3,041	岩瀬商店街周辺	磯子区	12.5	2.9	3,151
三ツ境	瀬谷区	37.4	4.6	2,603	六ツ川1丁目	南区	17.5	2.9	2,329
横浜駅西口駅ビル(シアル)	西区	38.8	4.5	7,342	松本町	神奈川区	9.8	2.9	2,219
藤が丘	青葉区	48.9	4.5	4,027	小机	港北区	9.8	2.9	2,164
プリンスベベ	港北区	25.1	4.5	3,233	生麦、岸谷	鶴見区	12.8	2.7	2,932
綱島	港北区	46.4	4.5	2,301	和田町	保土ヶ谷区	15.7	2.6	2,110
白根通り商店街	旭区	27.8	4.5	2,301	南太田	南区	10.4	2.5	2,000
ワールドポーターズ	中区	35.0	4.5	1,041	中村橋商店街	南区	6.9	2.2	1,753
杉田商店街	磯子区	27.5	4.4	2,521	金沢文庫駅東口	金沢区	13.3	1.9	2,712
戸塚駅西口	戸塚区	43.9	4.4	2,329	大船橋周辺、笠間十字路	栄区	13.6	1.4	548

品目別に見た順位は、「百貨店」では、「飲食物品」(7.3万円)、「婦人・子供服・洋品」(5.9万円)、「その他の商品」(3.7万円)、「身の回り品」(2.8万円)、「紳士服・洋品」(1.7万円)、「家庭用品」(0.9万円)となります。(図22)

一方、「スーパー」では、「飲食物品」(4.9万円)、「その他の商品」(1.3万円)、「婦人・子供服・洋品」(0.6万円)、「家庭用品」(0.4万円)、「身の回り品」(0.3万円)、「紳士服・洋品」(0.27万円)の順となります。(図22)

図22 百貨店・スーパーでの1日当たりの購入額と販売額(単位:円)



横浜市民は野菜・果物が好き

百貨店・スーパーで売上トップを占める「飲食物品」ですが、ではいったいどんな食品が消費されているかについて、横浜中央卸売市場の取扱高で推測してみます。

横浜中央卸売市場のデータをもとに計算すると、1日にもっとも多く消費されるのは、「野菜」(253.2g)、「果物」(101.3g)、「水産生鮮品」(44.8g)、「水産冷凍品」(35.9g)、「水産加工品」(36.6g)の順でした。「肉類」は、「食肉」(18.7g)

「鳥肉」(1.3g)、「鳥卵」(0.4g)で下位になっています。(図23)

順位の低い「食肉」ですが、食肉市場での取扱高を市民1人当たりの1日消費量に換算すると、「豚」(13g)、「牛」(6.2g)になります。(図24)

消費実態調査(1999年)で、横浜市民の食費を見ると、1家計1日当たり2915円をかけていることとなります。その内訳は、大きい順に、「外食」(547円)、「野菜・海草」(403円)、「魚介類」(334円)、「穀類」(274円)、「肉類」(269円)、「調理食品」(253円)、「果物」(128円)となります。(表7)

図23 横浜中央卸売市場の1日当たり消費量と額(2002年)

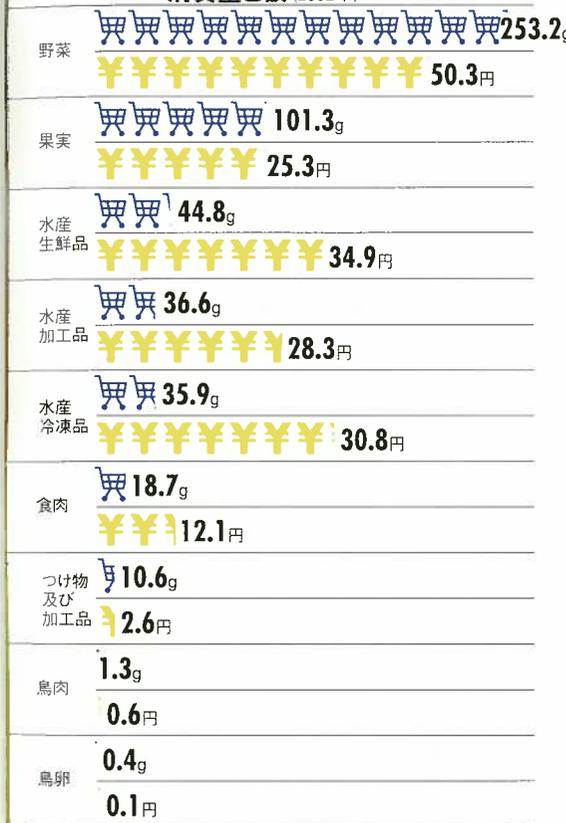


図24 食肉市場取扱高数量(2001年)



表7 横浜市民の家計(単位:円)

項目	年間収入	年間支出額	1日当たり
年間収入	8,303,000		
消費支出	385,905	12,864	
食料	87,448	2,915	
穀類	8,229	274	
魚介類	10,028	334	
肉類	8,068	269	
野菜・海草	12,087	403	
果物	3,837	128	
調理食品	7,581	253	
外食	16,407	547	
住居	28,370	946	
家賃・地代	18,950	632	
光熱・水道	20,720	691	
電気代	9,675	323	
ガス代	4,804	160	
家具・家事用品	12,073	402	
家庭用耐久財	3,949	132	
被服及び履物	19,496	650	
洋服	8,208	274	
保健医療	13,338	445	
交通・通信	44,464	1,482	
交通	13,710	457	
自動車等関係費	19,674	656	
通信	11,080	369	
教育	24,550	818	
教養娯楽	37,105	1,237	
教養娯楽用耐久財	3,944	131	
教養娯楽サービス	19,885	663	
その他の消費支出	98,340	3,278	
諸雑費	23,639	788	
交際費	25,737	858	
仕送り金	2,994	100	

注:総務省統計局「平成11年全国消費実態調査報告(家計収支編 非掲載統計表)」をもとにしましたが、母集団が小さいため必ずしも平均的な横浜市民像を表すものではありません。

【資料】市内大型小売店販売実績(2002年)
注1:大型小売店とは、従業員50人以上の小売商店のうち、次の百貨店及びスーパーをいいます。
1.百貨店:日本標準産業分類の百貨店のうち、
2のスーパーに該当しない商店で売場面積が3000㎡以上の商店
2.スーパー:売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している商店で売場面積が1500㎡以上の商店
注2:従業者数の年計は、2002年12月末現在の数字を使用しています。

《よこしん》のお知らせ *Informaiton*

『僕と彼女と彼女の生きる道』に撮影協力

●制作:関西テレビ・共同テレビ ●脚本:橋部敦子 ●音楽:本間勇輔
 ●プロデューサー:重松圭一(関西テレビ)・岩田祐二(共同テレビ)
 ●演出:平野真(フジテレビ)・三宅喜重(関西テレビ)・高橋伸之(共同テレビ)
 ●出演:草薙剛・小雪りょう・東幹久・美山加恋ほか



横浜信用金庫は、2004年1月6日から3月23日まで、毎週火曜日午後10時からフジテレビ系列で放映されたドラマ『僕と彼女と彼女の生きる道』の撮影に協力しました。草薙剛さんが扮する主人公が勤務する〈みどり銀行〉や転職しようとする〈ニコニコ信用金庫〉の舞台として、当金庫の本店や支店(新本牧支店)が使われたのです。撮影は昨年の12月から今年3月まで7回にわたって行われ、当金庫の職員もエキストラとして何人も出演しました。以下は、番組制作者からのコメントです。

我々 テレビドラマ制作者にとって横浜はとて魅力的な街です。横浜で撮影すると質感が生まれるからです。清冽な街並みの美しさ、ヨーロッパ的な文化の香り。横浜には我々撮影スタッフを引きつける不思議な魅力があります。今回、ドラマ『僕と彼女と彼女の生きる道』で

横浜信用金庫さんに撮影舞台としてのご協力をお願いしたのも、まさにその理由からでした。主人公・小柳哲朗(草薙剛)の勤務先「みどり銀行」の所在地が横浜であることによってはじめて得られる質感を我々は大切にしたいのです。撮影場所なんてどこにでもあるだろうと思われるかもしれませんが、実際にカメラを通してみると、都会での撮影にはいろいろな困難があります。話題になっているトレンド・スポットを選択してみてもどこか人工的な匂いがしたり、観光地のイメージが全面に立ちすぎたりと、なかなかイメージ通りにはいかないのが現状です。

その点、横浜は別格です。歴史的建造物に対する愛着や、都市景観に対するこだわりが他の街とは違うように思われます。外観を残し、老朽化したところはリフォームし、市民に開放している姿勢には深い感動を覚えます。おそらくそれらは、横浜市や横浜市民の意識の高さがもたらすものなのでしょう。

私はそんな横浜の姿勢に、スペインのパラドールのイメージを重ねます。パラドールは、歴史を目の当たりにする喜びと、快適な住空間を同時に提供する国営の歴史的建造物再生プランです。ご存じの通り多くの街では、歴史のある美しい建造物でも、利益追求のために破壊されています。そしてそこに建つのは一見瀟洒な高層建築やプレイスポット……。

そんな状況の中で、横浜市だけは別格です。背後に、市民の歴史に対する造詣の深さや、芸術に対する理解、あるいは、経済的効率だけでは判断しない民度の高さがあるのでしょう。

今回、横浜を舞台に撮影させていただき、そのことを強く感じました。おかげさまで、私たちのテレビドラマはその恩恵にあずかり大いに質を高めることができました。ここに誌面を借りて横浜市民に敬意を表すと同時に、感謝の念を表明します。(共同テレビ:岩田祐二)

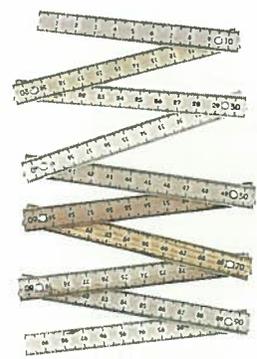
2002

《よこしん》80周年記念事業の推移

平成14年
 10月 『横浜ルネサンス(集)』発行
 12月 『横浜ルネサンス(商)』発行
 小学生の読書感想文募集開始
 市内全小学校に
 『盲導犬クイルの一生』を寄贈(1校当たり3冊)

2003

平成15年
 4月 『横浜ルネサンス(創)』発行
 〈創業支援融資制度〉取扱開始
 5月 フットサル横浜大会スポンサー
 横浜にぎわい座「スーパー一座」協賛(公演:8月17日)
 6月 単行本『横浜ルネサンス』発行
 7月 ミニ・ディスクロージャー発行(特集『横浜ルネサンス』付)
 小学生の読書感想文コンクール・表彰式
 日本盲導犬協会に盲導犬育成費を寄付
 小学生の読書感想文コンクール入選作品集を
 市内小学校へ寄贈
 創立80周年(7月19日)
 『80年史』発行



2004

8月 YOU-TVにおいて、当金庫の紹介番組放映
 9月 〈横浜のニックネーム〉募集開始
 10月 〈根岸線「駅」の歌〉募集開始
 12月 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
 特別演奏会(12月26日)に協賛

平成16年
 1月 〈横浜のキャッチフレーズ〉募集開始
 3月 〈根岸線「駅」の歌〉公表
 〈横浜のニックネーム〉公表
 4月 『横浜ルネサンス 特別号』発行

Yokohama Renaissance

横浜ルネサンス

横浜ルネサンス NO.4(特別号)
 2004年4月20日発行

制作:横浜信用金庫80周年記念事業委員会
 『横浜ルネサンス』制作室
 住所:〒231-8466 横浜市中区尾上町2-16-1
 TEL:045-651-1451(代) FAX:045-651-2303
 http://www.yokoshin.co.jp
 デザイン:M.Okada Graphic Design Office
 撮影:鈴木亮

©横浜信用金庫 Printed in Japan
 本誌記事の無断転載・複写を禁じます。

※本誌に関するお問い合わせは、
 横浜信用金庫総合企画部/TEL:045-651-1451(代)まで

あなたの**ビジネス**をサポートします…

《よこしん》クイックビジネスローン

ビジ・ポート

中小企業の経営者、
個人事業主の皆様へ

簡単・便利!FAXによる申込受付!

お申込み専用FAX

 **0120-043-775**

24時間受付

※ フリーFAX適用範囲は神奈川県全域・
東京都大田区・東京都町田市となります。

スピード審査!
(原則、3営業日以内のご回答)

第三者保証人・担保不要!

お問い合わせ 平日9:00~17:00まで

Tel.045-680-0833

《よこしん》ローンプラザ

《よこしん》ホームページ

<http://www.yokoshin.co.jp>

ご融資金額

100万円以上1,000万円以内(10万円単位)
※ただし、直近決算書の平均月商範囲内となります。

お使いみち

事業資金(設備資金含む)
※既存借入金返済資金は除きます。

ご利用いただける方

- ①同一事業を2年以上営業し、2期以上の決算申告を完了している法人または個人事業主の方
 - ②当金庫の本店窓口でお取引可能なエリアに所在する方
 - ③その他当金庫所定の条件を満たす方
 - ④金融業、風俗関連業、保険業(除く損害保険代理店)等、当金庫がご融資対象外と判断する業種は除きます。
- ※お申込の際は事前の審査がございます。審査の結果ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ※《よこしん》ホームページより申込書を取り出すことができます。
- ※詳しくは《よこしん》ローンプラザまたは窓口までお気軽にお問い合わせください。
- ※店頭にて説明書をご用意しています。